

松尾新一郎	39.12.20	40. 1.17	タイ
日比野丈夫	39.12.22		マレーシア
中村孝志	39.12.22		マレーシア
藤原利一郎	39.12.22		マレーシア
船越昭生	39.12.22		マレーシア
泉井久之助	39.12.27		欧州・タイ
川口桂三郎	39.12.28		タイ・マレーシア
久馬一剛	40. 1. 4		タイ・マレーシア
古川久雄	40. 1. 4		タイ・マレーシア
藤本勝次	40. 1.11		タイ・マレーシア
富士岡義一	40. 1.13		タイ・マレーシア・カンボジア
高坂正堯	40. 1.26		タイ

## あ と が き

マラヤ稲作シンポジウム特集号（2巻3号）につづいて、『東南アジア研究』2巻4号をお届けする。『東南アジア研究』もこれで創刊以来2カ年を経たことになる。本年度における発刊は5冊を数え、初年度のおくれをとりもどしてようやく季刊の体制にもちこむことができたのであるが、この実績をもってすると、来年度は通常の季刊号4冊の外に特集号1冊を加えた5冊を刊行することが可能となるであろう。東南アジア研究センターの官制化とともに、すぐれた学術雑誌としてますます発展させていきたいものである。現地調査を基礎とする原稿が次第に増加してきたのは、当センターの趣旨からいっても望ましいところである。調査発足以来まだ日が浅く十分な整理期間をもたぬために、これらの多くが現在では予備報告としての形をとらざるを得ない。本号においては、飯島茂・本岡武・渡部忠世・森山徐一郎・南勲の諸氏から寄稿をうけ、これに石井米雄氏の連載第4回めい原稿と、J. バジリー教授の特別寄稿とを加えた。現地からは矢野暢氏の貴重な調査地使いをはじめとして、タイ・カセツェート大学留学中の福井捷朗氏、エール大学留学中の酒井敏明氏からの通信があった。図書紹介は、東南アジア研究者同志の情報交換のために非常に意義が大きいものであり、本号にも諸氏から貴重な原稿をよせていただいたが、この図書紹介の原稿が比較的集まりにくいのが編集者の悩みである。今後のさかんな投稿を待ち望む次第である。

また本号において、東南アジア研究センター官制化を目前にして、昨年12月狭心症のため急逝された棚瀬襄爾幹事をしのんだ。つつしんで哀悼の意を表す。博士の旧友堀一郎氏および当センター本岡武幹事に故博士の思い出をしるしていただいた。

本号における原稿依頼から校正にいたる編集業務は、坪内良博君（文・大学院社会学専攻）に担当してもらった。同君の協力にたいして心から謝意を表す。投稿者の多くが、海外生活中であるので、校正には当センターの事務の諸氏の応援を頼んだ。短期間における小人数による作業であるので、読みにくい個所が生じた場合にはお許し願いたい。

最後に、いつものことながら、本号の出版においても、中西印刷にはいろいろと無理な注文をさせてもらった。中西亮氏を中心とする同社の協力に対して心から御礼申しあげる。

編 集 委 員